



4094



414  
A 916



大正十一年四月  
陸侯爵印

島の新重政府に於て此度ハシロク海近を領分  
政更向大改革を爲す積り之を内務省ハ第一  
注目するに此島東に於て島の新重二番先  
出島の陽に其由先即今の所にハ島の新重  
として島を不残押へ居れども南の所に日本の  
開拓がしつてあり此開拓を下田條約に取極し  
得る先の方ハ日本政府に於て延びてんとする

魯斯重政府は、  
産物に第一極る大なる石炭の出る山あり  
ふたの魯斯重政府の罪人を遣して掘る  
たも掘りて發見して兵隊を出して金と  
次中より其員数を増して日本人は先へ  
進み並る積十分備をもちて掘り且其地帯進  
新く石炭山見付出ることあり然るに日本人と

魯斯重人とあること掘るは必ず其事件  
を起る積魯斯重政府に懸念せらるる  
は如何に大きくなるや計り難く如何なる  
或るは富に日本政府に進る積子よの地  
一体魯斯重に向け日本人を進ること長し、  
不思の至りある僻遠の地は魯斯重の  
外政四羅巴の國おひく何れも益は無之を然

右柳通るハ世界全体の為を思ふことを  
忘る私の嫉妬の心が起ることしたるべきは吾  
斯重政府に於て以來ハる件起りてハ不道  
は易柳島を砂押へるは且急々斯重の理十分  
おまの柳よりハ令軍奥の勢及てハ  
柳の政を續けてハ中國と吾島と通リハ  
以てと甘カリニ兵隊負數十分備あり  
柳よりハ

